

教務だより

2016年6月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

コミュニケーション能力を鍛えよう！

茗溪塾塾長 宇野雅春

高校受験で大きく影響があるのが「内申」というものです。通知表の成績なのですが、必ずしも学力だけの評価ではありません。ずいぶん昔の話ですが、駿台テストで数学が全国のベスト10に入るような生徒の数学の通知表が2だったことがあります。その子は当然のように最終的には東大に進みました。私が内申というものに非常に疑問を感じた時期でもあります。個性的な子ほど内申が悪くなってしまうということをその当時は感じていて、15歳くらいの子供に課す課題としては重過ぎるという気がしていました。

しかし内申を特に受験の基準に入れていない私立高校の説明会に参加した時、中学時代の内申点の高い生徒ほど伸びているという調査結果を見て、考えがぐらつきました。つまり、内申点というのは、単なるお利口さんということではなく、人とのコミュニケーション能力のバロメーターであるということ。世の中にはいろいろな人がいます。好き嫌いだけでは、共同して何かをやり遂げることは不可能でしょう。求められているものに的確にこたえていくことも力としては大切ということかもしれません。そう考えるようになってから、やはり内申をとるということに「人間としての成長」が欠かせないと思うようになりました。お行儀よくただまじめを演技することともそれは違うと思います。

世の中が進むにつれこのコミュニケーション能力が弱くなってきている…人と何かをするより自分の殻に閉じこもっていたい。なんでも自分に合わせてもらうことで自分の今ほしいものをより容易く手に入れようとする。こういう傾向が強くなっている中で、得るためにある一定程度コミュニケーションを必要とする内申の評価は、子どもたちが陥りがちな流れに逆らって存在しているように思います。

企業の採用の選択基準のトップに来るのが「コミュニケーション能力」です。勉強さえできればいいというのはとっくに終わっていて、求められているのは、他人とのコミュニケーションの力なのです。目先の結果だけ追い求めていると最後の最後で大きな壁が立ちはだかるということです。塾だから勉強だけ何とかしろ！と言われがちですが、合格を勝ち取るうえで絶対必要なことの中にコミュニケーションの力が入ってくるとすれば、塾がそれを無視することはできないということになります。

合格に必要な学力とその結果を保証するうえでの人間力がどうしても2つの大きな課題として迫ってきます。自分の利害だけでなく人の気持ちや全体への気配り、合格に必要なものが実社会を生きていくうえでも大切であるということに気づかされます。

夏期講習前の課題が、「自立」です。夏からは、人と人のかかわりとコミュニケーション能力へとテーマが発展していきます。「受験における Win-Win」です。

「つながりが人を育てる」…この自明の理をわすれて、ただ試験だけをクリアーしても未来は開けてはきません。夏は、チャンスです。学習能力を伸ばすとともに、コミュニケーション能力を打ち鍛えるプログラムを是非組んでみましょう。